**Ⅰ　調査の概要**

**１　調査の目的**

　　　この調査は、学校における幼児、児童及び生徒の発育及び健康の状態を明らかにすることを目的とする。

**２　調査の周期・期日**

　　　周期　　昭和２３年度から毎年実施（昭和２３年度から昭和３４年度までは、統計の名称を「学校衛生統計」として実施）。

　　　期日　　学校保健安全法による健康診断の結果に基づき、平成２９年４月１日から６月３０日までの間に実施。

**３　調査の対象**

満５歳から１７歳までの幼児、児童及び生徒（以下「児童等」という。）の一部（抽出調査）。

なお、調査実施学校（園）数、調査対象者数及び抽出率は、次のとおりである。

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 区 分 | 学校（園）総数 | 児童等  総数 | 調査実施学校（園）数 | 発育状態調査 | | 健康状態調査 | |
| 調査対象者（人） | 抽出率（％） | 調査対象者（人） | 抽出率（％） |
| 幼稚園 | 276 | 5,308 | 34 | 888 | 16.7% | 980 | 18.5% |
| 小学校 | 289 | 59,233 | 58 | 5,342 | 9.0% | 20,280 | 34.2% |
| 中学校 | 161 | 33,921 | 39 | 4,181 | 12.3% | 13,227 | 39.0% |
| 高等学校 | 78 | 35,865 | 28 | 2,515 | 7.0% | 17,416 | 48.6% |
| 計 | 804 | 134,327 | 159 | 12,926 | 9.6% | 51,903 | 38.6% |

注1:発育状態調査は、調査実施校に在籍する児童等のうちから年齢別男女別に抽出された者を対象とし、

健康状態調査は、調査実施校の在学者全員を対象としている。

注2:学校（園）総数及び児童等総数は平成２９年度学校基本調査（青森県分）による。

注3:幼稚園には幼保連携型認定こども園を含む。

注4:幼稚園の児童等総数は「５歳児」のみの人数である。

**４　調査事項**

（１）児童等の発育状態（身長及び体重）

（２）児童等の健康状態（栄養状態、脊柱・胸郭・四肢の状態、裸眼視力、眼の疾病・異常、難

聴、耳鼻咽頭疾患、皮膚疾患、結核に関する検診、結核、心電図異常、心臓、蛋白検出、尿糖検出、その他の疾病・異常、歯・口腔、永久歯のう歯等数）

≪利用上の注意≫

(１)　 この速報は、文部科学省がまとめた「平成２９年度学校保健統計調査速報」の一部（青森県分）を要約したものであり、後日、「平成２９年度学校保健統計調査報告書」として文部科学省が公表する数値が確定値となる。

(２)　 年齢は､平成２９年４月１日現在の満年齢である。

(３)　 統計表の中の記号

　　「 － 」　計数がない場合

　 「 … 」 調査対象とならなかった場合

　「0.00」 計数が単位未満の場合

(４)　 合計の数値は､四捨五入を行っているため各項目の合計と一致しない場合がある。

**Ⅱ　調査結果の概要**

**１　発育状態**

**(１)　身　長**

男子は全年齢で全国平均を上回り、女子は１６歳、１７歳を除いた年齢で全国平均を上回っている。その差が最も大きいのは、男子では１０歳、１３歳の１．６ｃｍ、女子では１１歳の１．９ｃｍとなっている。

1. 男子は１０歳、１４歳、女子は５歳、１１歳で全国第１位となっている。
2. 最大の年間発育量は、男子は１１歳から１２歳時の７．９ｃｍ、女子は９歳から１０歳時の６．８ｃｍとなっている。

**表１　身長の平均値**



**グラフ１　身長の平均値**

**〈男〉**

****

　　★：全国1位

**〈女〉**



　　★：全国1位

**(２)　体　重**

男子、女子とも全年齢で全国平均を上回っており、その差が最も大きいのは、男子では　　　　１２歳の３．０ｋｇ、女子では１２歳の２．０ｋｇとなっている。

1. 男子は５歳、７歳、１０歳、１４歳から１６歳、女子は５歳、８歳、９歳、１１歳から１４歳で全国第１位となっている。
2. 最大の年間発育量は、男子は１１歳から１２歳時の７．０ｋｇ、女子は１０歳から１１歳時の４．６ｋｇとなっている。

**表２　体重の平均値**



**グラフ２　体重の平均値**

**〈男〉**



　　★：全国1位

**〈女〉**

****

　　★：全国1位

**(３)　３０年前（親の世代）との比較**

親の世代である３０年前の昭和６２年度と比較すると、身長・体重のいずれも、大半の年齢で親世代を上回っている。

1. 身　長

男子では、６歳、８歳及び９歳を除いた各年齢で親の世代より高く、世代間の差は１３歳が最も大きく、２．４ｃｍ上回っている。

　女子では、７歳、１６歳及び１７歳を除いた各年齢で親の世代より高く、世代間の差は１１歳が最も大きく、１．３ｃｍ上回っている。

1. 体　重

男子では、５歳、６歳、８歳及び９歳を除く各年齢で親の世代より重く、世代間の差は１２歳が最も大きく、２．３ｋｇ上回っている。

女子では、５歳、１４歳、１５歳及び１６歳を除く各年齢で親の世代より重く、世代間の差は１６歳が最も大きく、０．７ｋｇ下回っている。

**表３　 ３０年前の身長・体重の平均値との比較**



**グラフ３　３０年前（親の世代）の身長・体重の平均値との比較**

**〈身長・男〉**



**〈体重・男〉**



**〈身長・女〉**



**〈体重・女〉**

****

**(４)　１７歳の年間発育量と世代間比較**

１７歳（平成１１年度生まれ）について、５歳時（平成１７年度）から１２年間の発育量をみると、男子は身長が５９．８ｃｍ、体重が４４．８ｋｇ、女子は身長が４６．７ｃｍ、体重が３４．８ｋｇとなっている。

　①　年間発育量が最も大きい時期

男子は、身長は１１歳から１２歳の間（７．５ｃｍ）、体重は１１歳から１２歳の間（５．９ｋｇ）が年間発育量の最大値となっている。女子は、身長は７歳から８歳の間（７．１ｃｍ）、体重は１０歳から１１歳の間（５．１ｋｇ）が年間発育量の最大値となっている。

　②　親の世代（昭和４４年度生まれ）との比較

年間発育量が最も大きい時期について、親の世代である３０年前の昭和４４年度生まれと比較すると、男子の身長、男子の体重、女子の身長については、平成１１年度生まれの方が早期に最大値を迎えている。女子の体重については１０歳から１１歳の間に、共通して最大値を迎えている。

**表４　 １７歳の１２年間の発育量（親の世代との比較）**

－　平成１1年度生まれ（平成２９年４月時点１７歳）と昭和４４年度生まれ（昭和６２年４月時点１７歳）の比較　－



**グラフ４　１７歳の年間発育量と世代間比較**

**〈身長・男〉**

****

**〈体重・男〉**



**〈身長・女〉**

****

**〈体重・女〉**



**（５）肥満傾向児・痩身傾向児の出現率**

肥満傾向児及び痩身傾向児の本県と全国における出現率は次のとおりで、肥満傾向児の出現率が、男子、女子とも全年齢で全国平均を上回っている。

1. 肥満傾向児

男子では、１５歳の出現率が１６．４５％で最も高く、全国値との差では１６歳が最も大きく、５．９４ポイント上回っている。

女子では、１７歳の出現率が１３．７４％で最も高く、全国値との差も１７歳が最も大きく、５．７８ポイント上回っている。

男子は６歳及び１６歳、女子は７歳、９歳、１５歳及び１７歳で全国第１位となっている。

1. 痩身傾向児

男子では、１６歳の出現率が３．３２％で最も高く、全国値との差では１２歳が最も大きく、１．４３ポイント下回っている。

女子では、１０歳の出現率が３．９１％で最も高く、全国値との差では１２歳が最も大きく、１．７２ポイント下回っている。

**表５　肥満傾向児・痩身傾向児の出現率**

**グラフ５　肥満傾向児の出現率**

**〈男〉**

****

　　★：全国1位

**〈女〉**

****

　　★：全国1位

**２　健康状態**

**（１）疾病・異常の被患率等の状況**

　 　疾病・異常の被患率をみると、幼稚園と小学校の学校区分において、「むし歯（う歯）」が最も高く、中学校と高等学校の学校区分においては、「裸眼視力１．０未満の者」が最も高い。

**表６　疾病・異常の被患率等**



(注)１．「口腔咽喉頭疾患・異常」とは、アデノイド、扁桃肥大、咽頭炎、急性又は慢性的症状の喉頭炎、扁桃炎、音声言語異常の疾患・

　　　　異常等である。

　　２．「歯・口腔のその他の疾病・異常」とは、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂、舌小帯異常、唾石等のある者である。

　　３．「心電図異常」とは、心電図検査の結果、異常と判定された者である。

　　４．「その他の皮膚疾患」とは、伝染性皮膚疾患、毛髪疾患等、アトピー性皮膚炎以外の皮膚疾患と判定された者である。

　　５．「その他の疾病・異常」とは、いずれの調査項目にも該当しない疾病・異常である。

**（２）主な疾病・異常等の推移**

疾病・異常等の主なものの推移は、表７のとおりとなっている。

**表７　主な疾病・異常等の推移**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  | | |  | |  | |  | |  | |  | |  | |  | | （単位：％） | |
| 未  満  の  者  区 分 | | | 裸  眼  視  力  1.0 | | 耳 疾 患 | | 鼻・副鼻腔 疾　　　患 | | 口腔咽喉頭 疾患・異常 | | む し 歯 （う歯） | | アトピー性 皮　膚　炎 | | 心電図異常 | | 蛋白検出 の　　　者 | | ぜ ん 息 |
| 幼 稚 園 | | 青森県　平成19年度 | X | | 0.2 | | 1.2 | | 0.7 | | 66.4 | | 1.7 | | … | | 0.2 | | 0.1 |
| 青森県　平成25年度 | X | | 6.8 | | X | | 0.3 | | 49.0 | | X | | … | | 1.2 | | 1.4 |
| 青森県　平成26年度 | X | | 3.7 | | X | | 1.4 | | 43.5 | | 1.0 | | … | | 1.0 | | 0.8 |
| 青森県　平成27年度 | 12.7 | | 2.5 | | 2.2 | | 1.8 | | 46.3 | | 2.0 | | … | | - | | 1.2 |
| 青森県　平成28年度 | X | | - | | 1.7 | | 0.4 | | 50.5 | | 1.4 | | … | | - | | 0.8 |
| **青森県　平成29年度** | **X** | | **2.1** | | **1.7** | | **0.7** | | **56.8** | | **1.3** | | **…** | | **1.6** | | **2.0** |
| 全　国　平成29年度 | 24.5 | | 2.3 | | 2.9 | | 1.3 | | 35.5 | | 2.1 | | … | | 1.0 | | 1.8 |
| 小 学 校 | | 青森県　平成19年度 | 40.7 | | 6.0 | | 15.8 | | 1.1 | | 76.8 | | 2.0 | | 1.7 | | 1.0 | | 1.4 |
| 青森県　平成25年度 | 42.4 | | 5.8 | | 18.2 | | 1.5 | | 65.2 | | 1.1 | | 2.3 | | 0.4 | | 1.5 |
| 青森県　平成26年度 | 43.2 | | 5.6 | | 16.3 | | 1.2 | | 64.2 | | 1.1 | | 1.8 | | 0.6 | | 1.7 |
| 青森県　平成27年度 | 44.5 | | 7.4 | | 18.4 | | 1.1 | | 60.8 | | 1.3 | | 2.5 | | 0.8 | | 1.7 |
| 青森県　平成28年度 | 45.8 | | 5.7 | | 19.1 | | 1.4 | | 62.4 | | 1.3 | | 2.0 | | 1.1 | | 1.9 |
| **青森県　平成29年度** | **44.2** | | **4.9** | | **16.3** | | **1.0** | | **60.2** | | **1.7** | | **1.3** | | **1.1** | | **2.1** |
| 全　国　平成29年度 | 32.5 | | 6.2 | | 12.8 | | 1.3 | | 47.1 | | 3.3 | | 2.4 | | 0.9 | | 3.9 |
| 中 学 校 | | 青森県　平成19年度 | 60.6 | | 1.9 | | 8.1 | | 0.3 | | 65.2 | | 1.3 | | 2.1 | | 1.8 | | 0.7 |
| 青森県　平成25年度 | 62.3 | | 4.9 | | 14.8 | | 1.5 | | 54.5 | | 1.7 | | 2.4 | | 2.7 | | 1.5 |
| 青森県　平成26年度 | 64.1 | | 3.2 | | 20.4 | | 0.4 | | 50.9 | | 0.9 | | 2.9 | | 4.0 | | 1.4 |
| 青森県　平成27年度 | 65.0 | | 3.3 | | 13.8 | | 0.3 | | 49.7 | | 1.1 | | 2.5 | | 2.1 | | 1.1 |
| 青森県　平成28年度 | 63.7 | | 3.7 | | 12.5 | | 0.5 | | 49.5 | | 1.3 | | 1.8 | | 2.6 | | 0.9 |
| **青森県　平成29年度** | **67.8** | | **4.8** | | **17.8** | | **1.0** | | **49.2** | | **1.2** | | **2.1** | | **2.7** | | **1.4** |
| 全　国　平成29年度 | 56.3 | | 4.5 | | 11.3 | | 0.6 | | 37.3 | | 2.7 | | 3.4 | | 3.2 | | 2.7 |
| 高 等 学 校 | | 青森県　平成19年度 | 59.8 | | 3.2 | | X | | 0.3 | | 72.2 | | 1.1 | | 1.2 | | 2.1 | | 1.0 |
| 青森県　平成25年度 | 65.4 | | 3.7 | | 9.9 | | 0.5 | | 62.0 | | 0.9 | | 2.0 | | 2.3 | | 0.8 |
| 青森県　平成26年度 | 71.7 | | 2.9 | | 14.3 | | 0.2 | | 59.3 | | 0.8 | | 1.3 | | 2.7 | | 0.8 |
| 青森県　平成27年度 | 71.1 | | 2.1 | | 5.7 | | 0.5 | | 56.4 | | 1.2 | | 1.1 | | 2.0 | | 1.0 |
| 青森県　平成28年度 | 67.7 | | 5.1 | | 17.1 | | 0.1 | | 60.8 | | 1.1 | | 2.1 | | 2.2 | | 0.8 |
| **青森県　平成29年度** | **69.0** | | **3.9** | | **15.7** | | **0.1** | | **59.9** | | **1.0** | | **2.0** | | **2.9** | | **1.0** |
| 全　国　平成29年度 | 62.3 | | 2.6 | | 8.6 | | 0.5 | | 47.3 | | 2.3 | | 3.3 | | 3.5 | | 1.9 |
|  | |  |  | |  | |  | |  | |  | |  | |  | |  | |  |
| 注： | | １．小数点以下第２位を四捨五入している。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|  | | ２．心電図異常については、６歳、１２歳、１５歳のみ実施している。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|  | | ３．「X」は疾病・異常被患率等の標準誤差が５以上，受検者数が100人（５歳は50人）未満，回答校が１校以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|  | | 又は疾病・異常被患率が100.0%のため統計数値を公表しない。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

　　ア. 裸眼視力１．０未満の者

　　　①　裸眼視力１．０未満の者は、幼稚園を除いて、全国平均を上回っている。

　　　　・幼 稚 園　数値非公表（全国平均２４．５％）

　　　　・小 学 校　４４．２％（全国平均３２．５％）

　　　　・中 学 校　６７．８％（全国平均５６．３％）

　　　　・高等学校　６９．０％（全国平均６２．３％）

　　　②　１０年前と比較すると、小学校、中学校、高等学校において、その割合は増加している。

**表８　裸眼視力1.0未満の者の推移**



**グラフ６　裸眼視力1.0未満の者の推移**



　注：幼稚園の平成１９、２５～２６、２８～２９年度については統計数値が公表されていない。

　　イ. むし歯（う歯）

　　　①　むし歯の被患率（治療済みを含む）は、全学校区分で全国平均を上回っている。

　　　　・幼 稚 園　５６．８％（全国平均３５．５％）

　　　　・小 学 校　６０．２％（全国平均４７．１％）

　　　　・中 学 校　４９．２％（全国平均３７．３％）

　　　　・高等学校　５９．９％（全国平均４７．３％）

　　　②　１０年前と比較すると、全学校区分において、その割合は減少している。

**表９　むし歯（う歯）の被患率の推移**



**グラフ７　むし歯（う歯）の被患率の推移**

****

ウ. ぜん息

　　　①　ぜん息の被患率は、幼稚園を除いて、全国平均を下回っている。

　　　　・幼 稚 園　２．０％（全国平均１．８％）

　　　　・小 学 校　２．１％（全国平均３．９％）

　　　　・中 学 校　１．４％（全国平均２．７％）

　　　　・高等学校　１．０％（全国平均１．９％）

　　　②　１０年前と比較すると、高等学校を除く各学校区分において、その割合は増加している。

**表１０　ぜん息の被患率の推移**



**グラフ８　ぜん息の被患率の推移**

****

　　エ. アトピー性皮膚炎

　　　①　アトピー性皮膚炎の被患率は、全学校区分で全国平均を下回っている。

　　　　・幼 稚 園　１．３％（全国平均２．１％）

　　　　・小 学 校　１．７％（全国平均３．３％）

　　　　・中 学 校　１．２％（全国平均２．７％）

　　　　・高等学校　１．０％（全国平均２．３％）

　　　②　１０年前と比較すると、全学校区分において、その割合は減少している。

**表１１　アトピー性皮膚炎の被患率の推移**



**グラフ９　アトピー性皮膚炎の被患率の推移**



　 注：幼稚園の平成２５年度については統計数値が公表されていない。